

かずさの博物誌

チョウゲンボウ 若鳥の狩

～獲物はバツタ～

文・写真／成田篤彦

2013.8.20

今月中旬、連日、高温注意報が出た。木更津市でも二十四度を越えた。だが、思い切って、盤洲干潟に撮影に出かけた。

ヨシ原に入ると風呂場にいるように蒸し暑い。これだけ暑いと野鳥も日陰で休息？と思ったが、ホオジロやセツカが鳴き、干潟ではメダイチドリ、アオサギ、ウミネコ、キアシシギ、シロチドリなどが見られた。アオサが打ち寄せた海岸ではキョウウジョシギが盛んにえさをとっていた。海岸沿いの水田上空にミサゴが飛んでいた。すでに秋の渡りの気配が漂っていた。

ちょうど工事中の道路の四つ角で、電線に止まったハト大の茶色の鳥に気付いた。近づくともゆったりと飛び



©成田篤彦

▲メダイチドリの群れ=2013年8月11日木更津市

立った。つばさの先端が鋭い。長い尾。眼が真丸で大きい。チョウゲンボウの若鳥だ。八月中旬にもいるのか？と驚いた。この地域では毎年秋～冬に、チョウゲンボウの親が見られるが、夏にみたのは初めてだ。

彼は、ひらひらと舞い上がり、送電線の鉄塔のほどに止まった。あちこち見渡し、羽づくろいを始めた。その後、突然、さっと飛び降り、百メートル先の草原に舞い降りた。二秒ほどで、飛び立ち、近くの住宅の上空を飛び、再び、鉄塔に戻ってきた。何か足指でつかんでいた。

頭がなかったが、大きさや肢の形や長さから、シヨウリヨウバツタの雌だと思った。

これにはびっくり。どうしてバツタが百メートル先の草むらにいるのに気付いたのか？バツタが飛んだので分かったのか？ともかく、すごい視力だと思った。鉄塔を飛び立ちバツタを捕獲し、戻るまで、約一分間しか経っていなかった。そのうちバツタをもったまま、鉄塔の回りを飛び、その中ほどに止まった。しばらくして再び飛び上がって、今度は頂に止まった。そして、約十分後に海岸へ向かって、飛び去った。その時は、バツタは持っていなかった。

この鉄塔にはカラスが集めた巣材の枝が置いてあった。鉄塔から何度も飛び立ったのはカラスを警戒し、安全を確かめて獲物を食べたのかと思った。



©成田篤彦

▲バツタを捕えて飛ぶチョウゲンボウ若鳥
=2013年8月11日木更津市



©成田篤彦

▲鉄塔にきたチョウゲンボウ若鳥=2013年8月11日木更津市



©成田篤彦

▲鉄塔に止まるチョウゲンボウ若鳥
=2013年8月11日木更津市

それにしてもチョウゲンボウの若鳥があきれるほど眼が良いことが分かった。

memo

チョウゲンボウ(長元坊) ハヤブサ目ハヤブサ科

体長 雄で三十三cm、雌二十八cm。
県指定一般保護生物。砂漠地帯を除くユーラシアとアフリカ両大陸に広く分布する。北方で繁殖するものは南へ移動する。かずさでは冬鳥または旅鳥。千葉県我孫子市、松戸市などの河川敷では繁殖している。東京湾に面した千葉市、習志野市などの埋め立て地の工場等でも営巣する。

参考文献

千葉県・2011・千葉県
の保護上重要な野生生物
千葉県レッドデータブック